

## 今後の将来ビジョン策定過程

### ■西村教授からの助言

第2回懇談会までの経過を踏まえ、今後の策定過程について國學院大學の西村幸夫教授から次の通りご助言をいただきました。

#### 1. 今後の将来像の描き方について

- 全体図に様々な課題や、できそうなことを落とし込む作業をする。
- 例えば、流作場五差路や旧新潟駅前通り、弁天公園、昔の川岸、信濃川の埋め立て地など、地区の個性みたいなものを、もともとどういう役割があって、今どうなっていて、どういう課題があるのかを1個1個見ていくとよい。
- 特に大事なのは都心軸と副軸の関係である。主要な都市では、例えば御堂筋に対する心齋橋のように、表通りに対する歩行者メインの通りが存在していることが多い。
- 現地を歩きながらもう少し地区の手がかり（個性的な店舗や、通りの個性など）を増やして、メインの道とサブの道のそれぞれに戦略を立てていく必要がある。

#### 2. 将来像を検討するエリアの考え方について

- 一つの塊として感じられる空間で、“通り”と、その左右で細長い団子をつなげるようなイメージで試してみるとよい。
- 塊ごとの物語を言葉で書いてみる。こんな背景で、こんなことができあがっていたけど、今こうなっている。でも、こういう可能性の芽が見えるなど。塊ごとにこんなエリアを目指そうというのが見えてくると次の動きが見えてくる。
- 1個1個の交差点であっても違うのだから、面白そうなところを活かしたくなるはずである。
- エリアをイメージする際に、リーダーになるようなお店があると、通りのイメージを創っていくことができる。部分的にがんばっているところに光を当て、芽をうまく育てていくとよい。

### ■今後の策定過程（予定）

いただいたご助言を踏まえ、今後、次の手順で将来ビジョンの策定を進めます。

①第3回懇談会【今回】	・都心軸、副軸を中心としたストリートをいくつか分割し、それぞれについて背景（歴史）、現状、課題、将来像を整理し、ご意見をいただく。
②第4回懇談会	・第3回懇談会でいただいた意見を事務局で整理し、結合可能なストリートは結合するなどし、ストリートごとの将来像をとりまとめる。 その段階のものを将来ビジョン骨子として提示 ・ロードマップと具体的な取組みの検討を並行して実施
③第5回懇談会	・（仮称）新潟駅・万代地区周辺将来ビジョン（素案）の提示